



国際会長 (IP) K.C.Samuel (India)

“Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

会長 古賀 健一郎  
副会長 古田 和彦  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 英幸

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

## <今月の聖句>

伊藤 比朗美

空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。

(マタイによる福音書6章26節、27節)

## 今月のひとこと

### 「子どもたちに見せる大人の姿勢」

佐竹 博



新しい年を迎えました、皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年を表す漢字は「戦」でした。ワールドカップの「熱戦」、脱炭素社会への「挑戦」、物価高との「戦い」など解釈は様々ですが、多くの人が思い浮かべるのはロシアによるウクライナ侵攻だったのではないのでしょうか。攻めるほうは攻撃を止めず、守るほうも敵地を攻撃する事態に発展しています。

ウクライナへの同情と応援の気持ちが敵地への攻撃に寛容な雰囲気となり、「防衛」の解釈はにわかには拡大していつ

間にか、日本の周辺有事に対する備えの強化、さらには敵基地攻撃力の保持へとエスカレートしていくことに利用されているのではないかと思います。

自分たちの思いを実現してくれたり、都合よく財政出動を推進してくれたりするだけの物差しで政治家を見て議員を選んではいけない。それが平和な未来を子どもたちに残し継承する責任のある大人のとる行動だと思った新年です。

さて、ウクライナから避難してきている人々とお付き合いが始まりもう9か月になります。ウクライナでは1月7日がクリスマスとして一般的だそうです。日本の教会でもクリスマスツリーは1月7日まで飾るところがあると聞いたことがあります。しかしウクライナでは近年、12月25日をクリスマスとして祝うことがじわじわ浸透し始めているようです。1月7日というのは、ロシア正教の影響があるようで、ウクライナの近代史と重なります。ロシア正教の承認を要さないウクライナ正教会のうち独立系正教会がクリミア侵攻以降、ロシア正教会とは違う12月25日をクリスマスとする動きが出ているとのことでした。

この情報は、ウクライナ支援を担当している本部事務局スタッフの石川さんが、支援しているウクライナの人から聞いた話を本部事務局のスタッフ会で紹介してくれた話です。

この方は、お子さんが、経済的な支援を受けて12月より横浜中央YMCAのプログラムに参加しています。子どもたちの横浜での生活は半年以上になってきています。ウクライナ大使は、支援イベントの際に、避難してきている人々を前にして、「戦争は少なくとも1年は続く、帰ることよりも横浜市民になることを考えてほしい」と話していました。

今、子どもたちは学校生活など一生涯懸命横浜での生活を送っています。「スターバックスにいるのを見た」「けしから

## <2022年12月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 名 コメント 名 ビジター 名 ゲスト 名 合計 7名	67 % (メーキャ ップ1名を 含む) 前月修正出 席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

## <1月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
12	木	18:30	第一例会	中央 Y+Zoom
26	木	17:00	第二例会	Zoom

ん」「どこどこに行きたい、何々がしたいなど贅沢だ」という  
厳しい意見があると聞きます。間違いだと思います。

支援を受けているから、贅沢をしてはいけない、スミ  
ングなど習い事に通えないということはないと思います。今横  
浜に避難してきて、定着しようと生きている人が希望を言う  
ことが許されず、支援によって叶えようとするのが、叱ら  
れるなどということがあってはならないと思います。

「他にも支援を必要としている人はたくさんいる」それも  
事実です。それぞれ支援したらいいのです。人の行動を指摘  
するより、自らの行動です。YMCA も厳しい意見や指摘を怖  
がって支援を思いとどまるより、行動したいと思います。

YMCA はミャンマーの人々も同時に支援しています。タイ  
の人身売買から子どもたちを守る活動もしています。経済的  
に困難な人のための子ども食堂もしています。ウクライナ支  
援もその一つです。

ウクライナから避難してきていて、中央 YMCA の日本語  
学校に聴講生として参加し、本部事務局で働いているアリナ  
さんのコメントを一部抜粋して紹介します。

「日本の皆さん、横浜市、そして日本全体が、私を含めて  
多くウクライナ人たちにしてくれたことすべてに、とても感  
謝しています。今後、もっと多くの人にこの国の美しさ、日  
本人の優しさを知ってもらいたいと思います。(中略) 日本  
は大好きですが、できるだけ早く帰国して、家族や友人に会  
いたいです。今、ウクライナでは毎日停電があり、インター  
ネットや携帯電話を充電するための電気が不足しているため、  
家族や友人と連絡を取ることが難しくなっています。そのた  
め、メッセージの返信がないたびに不安になり、会いに行き  
たいと思うようになりました。」

電話やメールが届かない、返信がないことが、電力不足に  
よるとわかっていても、攻撃の犠牲になっていないか無事な  
のだろうかとの不安が大きいそうです。すべての人に満  
足する支援ができないことは謙虚に受け止めつつ、目の前の人  
々を支え、社会全体で支えることのできる社会や国を作っ  
ていく政治家を選びたい。何かに失望した結果自分のできる  
ことだけをするのではない大人の姿を、子どもたちに見せる  
ような心構えで1年を過ごしたいと思います。

## 「横浜YMCAクリスマス礼拝報告」

古賀 健一郎

横浜 YMCA のクリスマス礼拝は、12月17日(土) 14時  
から、会場参加と YouTube ライブ配信にて、日本キリスト教会  
横浜海岸教会で開かれた。横浜 YMCA 混声合唱団の美しい  
賛美が捧げられ、横浜 YMCA の学童クラブや保育園の子  
どもたちによる讃美の手話動画も映し出された。また、横浜  
YMCA Port Friends による美しいハンドベルの音色が響き  
わたり、クリスマスの喜びが見事に表現された感動的な礼拝  
となった。

日本キリ  
スト教会横  
浜海岸教会  
牧師の上山  
修平先生か  
ら、『闇の中  
に光を見る



喜び』と題  
してクリス  
マスメッセ  
ージをいた  
だいた。「イ  
エスの誕生  
の喜びの出  
来事は、闇

の中で“光”が差し込んできたということである。“光”とは単  
なる“ライト”ではない。その“光”は、ぱっと照らして明るくな  
ったのではなく、主の栄光が羊飼いたちの周りを照らすこと  
である。初めての経験に彼らは驚き恐れた。御子イエスをお  
与え下さった、神様の不思議な驚くべき御業がそこにあった。  
聖句の後半には、驚きながらも、そこで示されたことを信頼  
し、行動し、従っていった羊飼いたちの姿が描かれている。  
主が示された言葉の通りに、羊飼いたちは馬小屋の飼い葉桶  
に寝かされた乳飲み子イエスを探し当て、神を崇め賛美した。  
栄光にみちた神様が、私たちの為に、御子イエスをお与  
え下さった。それを知って私たちが生きる時、どんな困難にあ  
っても“主にある平安、平和”がそこにある。ロシアのウクライ  
ナ侵攻などの争いに悲しみ嘆き、ある意味闇の中に置かれて  
いる気がした一年だった。「ここを目指しなさい」と呼びか  
けて下さる神様、そしてそこを見つめて歩んでいく時に、羊  
飼いたちが経験した“神様にある喜びと感謝”へと導かれると  
聖句は語る。

YMCA はこうした羊飼いたちの姿を聖書から学び、実際に  
これまで多くの人々に希望を与えてきたし、今も与え続け  
ている団体だと思う。この暗い世の中だからこそ、この希望を  
人々に示していく責任を果たすことが出来たら、きっと神様  
は喜んで下さるのではないだろうか。・・・と語られた。

当日の献金は、「横浜 YMCA 国際・地域協力募金」として  
用いることが伝えられ、その募金を受ける横浜 YMCA 国際  
事業委員会委員長の齋藤百合子さんから感謝のメッセージが

述べられた。

最後に佐竹博横浜 YMCA 総主事は、ご協力をいただいた横浜海岸教会の皆様、横浜 YMCA 関係者の皆様のお働きへの感謝のお言葉とともに、「世の中には小さくされている人、弱くされている方がたくさんおられる。その方々のために神様はイエスをお遣わしになられた。そして YMCA につながる者は、イエス様の生き方に基づいて歩いていきたい」と閉会のあいさつを述べられた

コロナ危機、多くの自然災害、さらには平和が脅かされている厳しい現実において、静けさに包まれた祈りの中で、明るい「喜びと希望の光」を見出し、歩みを進められるように、平和の主に祈りを捧げたい。

尚、本クリスマス礼拝は、『横浜クラブ 12 月例会』を兼ねた。

横浜クラブ会場参加者：秋元、古賀、佐竹、古田

YouTube 参加者：青木、大高、齋藤

## 「第 96 回 YMCA-Ys 協議会報告」

古田 和彦

12 月 6 日（火）19：00～20：15、第 96 回 Y-Ys 協議会が Zoom によるオンライン会議で開催された。参加者は 25 名ほどと思われる。

今回は、横浜つづきクラブが担当した。開会礼拝では鳴下純久担当主事が、聖書ホセア書 10 章 12 節を朗読、祈りをささげた。次いで、同クラブの今城高之会長が司会・進行した。

まず、佐竹横浜 YMCA 総主事から、3 年ぶりにユースボランティアリーダーズフォーラム (YVLF) が開催できたこと、今日、その参加リーダーから報告があること、YVLF がワイズの支援で開かれていることへの感謝が述べられ、来年度はこの会も 100 回を迎えること、その時は対面で祝いたいとの挨拶があった。

都合により遅れて参加の小松仲史部長からは、ユースリーダーは YMCA の宝である、ワイズも同様に思っているとの挨拶があった。

次いで協議に入った。議題は一つだけ 1. 「合同新年会」について。ワイズ側では先の部評議会において、コロナの状況から残念ながら今回も見送りたいと結論付けた旨報告した。その報告を受け、YMCA 側も同意し、中止とする事に決定した。

続いて報告。

①東日本 YVLF 報告。参加のリーダー 4 名とスタッフ 1 名から報告。「今、ユースリーダーに求められていること」とのテーマで 8/31-9/2、東京 YMCA 山中湖センターで開催。東日本地区から 28 名のリーダー、5 名のカウンセラー、スタッフ 5 名が参加した。横浜 YMCA からは 7 名のリーダーが参加。

基調講演、各 Y 紹介、水上アクティビティ、グループデスクッション等の報告があった。

②第 25 回横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーラン報告。瀬戸担当主事から動画と口頭で報告。10/15 リアル開催と 10 月末までのオンライン開催とし、リアルには 51 チーム、オンラインには 33 チームと 27 名の個人が参加、支援金は昨年より 100 万円増となったことなどが報告された。

③絵本贈呈事業報告。阿部担当主事から、メネットたちが集まって送付する作業がまだ終わっておらず、絵本は YMCA に届いていないが、注文通りに配布を受ける事が出来る予定と報告された。

各ワイズメンズクラブからアピール。横浜クラブからは、12 月例会は懇親会を中止し、横浜 YMCA クリスマス礼拝を第 1 例会とすること、1 月例会 (1/12) は YMCA 広報担当池田直子氏に「YMCA の社会的活動の意味」を語ってもらうことにしていることを報告。

その他各クラブから、バザーの開催、クリスマスの予定、例会の開催状況、つづきクラブの YOU&I コンサート報告などがなされた。最後に YMCA から 12/17 開催の横浜 YMCA クリスマス礼拝のアピールがあった。

次回 97 回は 2023 年 3 月 7 日（火）19：00～20：30 会場は横浜中央 YMCA、横浜つるみワイズメンズクラブの担当で開催することとし、散会した。

横浜クラブ参加者：青木、佐竹、古田



## 『新年の抱負特集』

### 『新年の抱負』

青木 英幸



SC ジョンソンにご支援いただき年末年始の 5 日間、外国につながる子どもたち(小・中学生 12 名)に、冬休みの宿題や日本の伝統遊びを体験してもらった『YMCA こどもにほんごクラブ』が実施され、YCJ サポーターの方々や学生たち延べ 29 名がボランティアリーダーとして携わっていただきました。

日頃は 18 歳以上を対象とした専門学校で、「語学教育」の専門性を生かし、これからも増えていくと予測される外国につながる子どもたちの「語学力」という課題に対して、模索中ではありますが、YMCA の専門学校として今後も取り組んでいきたいと思っています。

### 『2023 年の私の抱負』

秋元 美晴



私は今年は年女ですので、飛躍の年としたいと思います。いままで以上に飛んだり跳ねたりしたら、どういことになるか、自分でもわかりません。

ところで、夫は信じられないほど

几帳面で、大学1年生の時から英語で日記をつけています。毎年「年頭の所感」というページに new year resolutions を書きますが、私も日本語でその年にやりたいことを書きます。

今年は4つ書きました。1. (昨年学生たちと始めた)「教えて!ふむふむ先生」という動画を作り続ける。2. 今年も『聖書』を通読する。3. ワイズメンズクラブのみなさんと活動する。4. 人生を楽しむ。いつも12月31日に自己評価をしますが、全部成し遂げることができるように、頑張りたいと思います。

## 「まだ生かされて」

伊藤 誠彦



昨年の横浜クラブブリテン9月号で紹介した通り、自分の健康状態は厳しい状況にある。正直言って80歳の誕生日(昨年11月)は迎えられないと思っていた。しかし、まだ生かされている。

親身になって治療して下さる病院の医師、看護師、スタッフの方々を筆頭として、大勢の人たちのおかげである。家内をはじめ、子供や孫たち、学生時代や会社時代の友達、ワイズメンの人達は、私の病状を知ると過度に励ますのではなく、温かい目で応援して見守ってくださる。

皆の応援に応えるべく努力して、願わくは、来年もまた当欄に現状を報告したいものである。

## 「新年の抱負」

遠藤 喜七



新年おめでとうございます。マンション管理の仕事で日々忙しくしております。コロナの収束と世界平和を祈る世の中にあって、私は健康に留意しながら、仕事を通して、社会の為に奉仕の精神で地域社会に貢献していきたいと思っております。

本年もよろしくお願ひいたします。

## 「メディカルフィットネスで改善を」

大高 治



最近の抱負を振り返ると「一知半解改善の為の80の手習い、体年齢60歳を目指して、物忘れに逆らって」と、進歩を図るというより、後退防止策です。毎年続けて行かなければなりません。

数年前63~4歳であった体年齢は、最近61歳が定着。だが、一昨年来に陥った腰痛は、整形外科、整骨院、鍼灸院に通い、90%は治ったと思いますが、芯の不快感は取れず、姿勢も悪くなって来たようです。

内科と整形外科の医師の監視下で、矯正専門の若者が組立

てくれた私専用のメニューに沿って諸々のフィットネスに、週1回通い始めました。そのメニューの半分は漸次家でも出来そうです。徐々に筋力もアップするでしょう。骨格筋率が増え、体脂肪も減り、体年齢を下げる効果もありそうです。

真面目に通い1年後の変身を楽しみにしたいと思います。そしてクラブの課題、会員増加のお役にも立ちたいと念じています。

## 「学び」

押川 幸男



昨年の10月から12月迄、毎週月曜日の午後6時20分から9時30分まで、乳幼児保育の学びのために東京出張が続く、体力的に少々疲れ気味でしたが、多くの気づきを与えられました。

そのため、もう一度今年の5月から7月までさらに学びを続ける予定です。

6月には、学びの自分自身への御褒美としてシンガポールでの視察も予定しています。

老体ながらもいや老体だからこそ、動けるうちに、今年こそ自分の好きなことに多くの時間を割きたいと思っています。

## 「人と人がわかりあえたら・・・」

古賀 健一郎



世界の平和が脅かされている時代にあって、2月開催の横浜YMCAピースフォーラムにおける、安彦良和氏の講演には大変関心を抱き注目している。

彼の映画『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』のテーマは『人間はなぜ戦争をしてしまうのか?人と人はわかりあえない』である。

人間の歴史は誤解や敵対の繰り返しであり、果てしない暴力と平和の螺旋だった。でも、『わかりあえたらどんなにいいだろう。そうすれば、他人の痛みを知り、わかり合えない他者とも向きあうことができ、より多くの人が幸せになれる』との考えが彼の根底にある。

国際社会の荒波にもまれる危機的な状況の中、今こそ『自分には何ができるか』を考え、微力であっても行動に移していきたい。

## 「自律神経失調症からの回復」

齋藤 宙也



今年の抱負というと、結局は、自律神経失調症からの回復ということに尽きる。治さなければと思うと、それがもとで神経過敏になってしまい、治りにくいという難しい病気である。

ある先輩弁護士からは、弁護士皆が通る道とも言われた。

自律神経失調症とは多少異なるかもしれないが、昨年、不安神経症と思われる症状に駆られた弁護士の物語を読んだ。

くしくも、統一教会問題が昨年騒がれだすはるか前から、統一教会相手に「青春を返せ訴訟」を手掛けた第一人者の弁護士である（弁護士ドットコムタイムズ 65 巻 4～11 頁）。

弁護士皆が通るといっては、大げさではなさそうである。超人もいるものの、人間のできることにやはり限界がある。ニーチェは奴隷（弱者）道徳とやゆしたようであるが、それでも、弱者に向き合う姿勢は自然と強化されることになりそうである。

## 「畑でやりたいこと」

佐竹 博



藤沢市から借りている市民農園が2月に更新を迎えます。16区画の抽選で12月に「当選」の通知を受け取りました。これで3月から3年間、畑を継続できることとなりました。

1年の中で必ず栽培するものは、落花生とヤーコン、どちらも秋の収穫ですが、5月ごろから、畑の約半分を使います。残りの半分で季節の野菜を育てますが、キュウリやトマトといった一般的なものは、栽培に時間をかけられるベテランさんと比べると収穫量や出来栄に明らかに差がつくので、珍しいものに挑戦することにしています。

去年はバターナッツかぼちゃに挑戦しました（単人瓜失敗しました）。今年は空心菜やズッキーニに挑戦しようと思います。次の年に別の区画でだれかが同じものを栽培しているのを見ると、ちょっと嬉しくなります。

## 「主の求める和解と平和のために」

できることを一歩でも」

田口 務



ウクライナ避難者 90 人を迎え、伝統的なウクライナの飾りつけなどの趣向を凝らしたクリスマス会を行った。

子どもたちは歌やゲームで楽しみ、クライマックスにはウクライナのサンタ「聖ミコライ」から一人ひとりに絵本

が贈られ、歓声が上がった。

絵本は日本語とウクライナ語で読めるようになっている。お母さんたちの笑顔も広がる。一年前には、まさか遠い日本でクリスマスを迎えるとは、誰も想像がつかなかっただろう。そう思うと、マリアとヨセフもイエス誕生の一年前に、自分たちの身に起こることは想像がつかなかったに違いない。

それを受け入れた二人、そして羊飼いや、博士たち。戦争は長引きそうだ。できれば新年、想像もつかなかった平和が訪れますように！

## 「2023 年を迎えて」

古田 和彦

去年は長年の懸案であった『横浜海岸教会 150 年史』を上梓することができ、また、その一端を 11 月例会に卓話として



発表もでき、一段落となった。その疲れのせい、血圧が薬を増やしても下がらないことや、秋には鼠経ヘルニアの手術を受けるなど、肉体的にも衰えが目立ってきている。

私の大学の一先輩は「年寄半日仕事」をモットーとしていると常日頃からおっしゃっている。これは、半日（午前とか午後）を普通の人の一日と見なし、それ以上のことは行わない生き方である。

3 月で 79 歳となる身としては、先輩の処世訓を受け入れ、無理なく日々を送りたいと思う。そのためには、やらなければならないことをぎりぎりまで延ばすことなく、半日で収まるよう早めに対応できるよう心がけたいものである。

## 「新しい駅」

松島 美一



正月 3 日快晴。妻を送って、意気地なく、引きこもり状態の私を娘が心配して、外出を誘います。初詣などの混雑はごめんです。ふと思いました。長年乗り慣れている山手線に降りたことのない駅がある。「高輪ゲートウェイ」、

ここだ。行ってみよう。

品川駅で京急を降り、旧東海道を泉岳寺方面へ歩きます。鉄道線路との間は大きな建物が工事中です。

大分運動したと感じた頃、目的の駅のエスカレーターがありました。それを上ると、工事中的ビル敷地にクレーンが林立、高所恐怖症をそそります。

駅に入る前に、駅構内が見渡せる一階上のスタバに入り、コーヒー飲みながら駅を展望。明るい、木材を多用した著名建築家設計による駅構内、ピアノを弾いている人も居ます。新幹線が遠くに見える車両基地、飽きない風景です。

駅構内に入り、電車で一駅、喧噪の巷品川駅へ。昼食をすませ、電車で帰宅すると疲労困憊状態、ベッドへ倒れ昼寝。まあよい正月でした。

## 第二例会報告

大高 治

日時 ; 2022 年 12 月 22 日 (木) 17:00~18:00 (Zoom)

出席者 ; 青木、伊藤、大高、古賀、古田

古賀会長のお祈りに続いて開催。

### 1. 行事予定の確認

12 月 22 日 (木) から翌年 2 月 23 日 (木) までの予定を確認し、2 月 4~5 日 (日)

神戸で開催される第 3 回東西日本区交流会を追加。

### 2. 協議・報告事項

#### (1) 横浜クラブ例会 (1~2 月)

\* 1 月の第 1 例会 1 月 12 日 (木) 18 時半から

卓話者は横浜 YMCA 職員の広報担当池田直子様

YMCA の内部のことだけでなく、外部に向かって発信している YMCA の活動の価値をお伝え頂く。またワイズ会員以外の方々にも例会参加を呼びかけ、ワイズ・

YMCA の関心と入会を呼びかけたい。

(2) 横浜 YMCA 会員大会～ピースフォーラム、横浜クラブの2月の例会を兼ねる。

\*2023年2月11日(祝・土) 10:00~12:30

\*特別講演; 安彦良和氏「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」の原作・総監督

「歴史から学ぶ戦争と平和～人と人が分かり合える世界とは～」が主題。戦争物語ではなく、人と人が分かり合えたら幸せな社会が繋がるといった内容。

(3) 大阪長野クラブから頂いたクリスマスプレゼントの紹介

\*お礼として昨年同様、アンジェのクッキーを贈る予定。

(4) ブリテン1月号編集計画の確認

各位の分担を確認し、恒例の「新年の抱負(全員対象)」を確認した。

(5) 第3回東西日本交流会(2023年2月4日(土)~5日(日))

会場; ANA クラウンプラザホテル神戸

横浜クラブからの参加者は古賀、大高の予定

(6) 横浜クラブの広報活動(ホームページ、リーフレット等)

2~3月にらせるよう準備中。

(7) 次年度クラブ役員

会長の選任は1月の役員会までに最終決定要。

\*3年間会長を務めた古賀会長からは、以前から辞退の申し出がある。

古田副会長から「私で良ければ、引受けます」との発言があり、役員一同感謝。

1月の第1例会で提案することにした。

\*その他湘南・沖縄部の会長、書記等の役員や事業主查の改選がある旨紹介された。

### 【大阪長野クラブよりのクリスマスプレゼントへの感謝】

大阪長野クラブより手作りの心のこもった(下記の)クリスマスプレゼントをいただきました。深い感謝です。新年にあたって、(1993年 DBC 締結以来)深い絆に結ばれた大阪長野クラブの皆様が健やかに過ごされ、喜びに満ちた一年となりますようにお祈りします。



ピンチに装飾を施した手作りのお品。  
(書類ハサミ等にも利用出来る)



担当主事 青木 英幸

横浜 YMCA 専門学校のクリスマス礼拝が 12 月 4 日に Zoom を使用しオンラインにて実施されました。森直樹牧師(ともにチャペル)から「光と闇」をテーマに、人生は山あり谷ありで喜びと悲しみがあると、森牧師のご自身の近況と照らし合わせながらイエス様が私たち一人一人のところに来てくださるとメッセージをいただきました。当日の運営は学

生委員が中心となり行い、司会は本校国際情報ビジネス科1年のチャウハン プラディーブさんが担当しました。礼拝の聖書箇所である「新約聖書マタイによる福音書2章1節~18節」は長文のため、前日に何度も練習を行いました。その成果が実りしっかりと拝読し、礼拝を進行してくれました。コロナ禍にあっても学生同士がつながり、共にイエス様の誕生を祝うことができましたことを感謝いたします。

2023年度

の授業は1月5日より開始しました。新しい1年が皆様にとって良い年になりますようお願いいたします。



### 1月例会プログラム

日時: 1月12日(木) 18:30~20:30

場所: 横浜中央 YMCA 801 教室+Zoom

司会: 秋元

1. 開会点鐘及び挨拶.....古賀会長
2. ワイズの信条.....全員
3. 今月の聖句.....伊藤メネ
4. ゲスト・ビジターの紹介.....古賀会長
5. 卓話 「横浜 YMCA の活動と広報」  
横浜 YMCA 広報・IT 担当 池田 直子氏
6. ビジネス・報告
7. Happy Birthday (該当なし)
8. 閉会点鐘.....古賀会長

例会報告: 古賀ワイズ

### 2月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
4-5	土		第3回東西日本区交流会	ANA クラウンプラザ神戸
11	土	18:30	横浜 YMCA 会員大会 兼クラブ第一例会	湘南とつかY
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール [aoki\\_hideyuki@yokohamaymca.org](mailto:aoki_hideyuki@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080